

8 . 日本の気象

【1】日本の気象を支配するもの

地軸は地球の公転軌道面（ ）に対して（ ）度傾いているので、太陽直下点は季節によって変化する。夏至の頃には（ ）上の地点が、冬至の頃には（ ）上の地点で太陽高度が90度となる。このため風系や高気圧帯の位置も季節によって地表に対する位置を変えることになる。

日本付近の気象は偏西風と上空のジェット気流の影響を強く受けるので、日本の天気は西から変わってくることが多い。偏西風と上空のジェット気流は、冬は日本列島の（ ）側を吹いているが、夏には日本列島の（ ）側に移動する。春秋の季節の変わり目にはちょうど日本列島の上空を吹くことになる。

気団：停滞する高気圧下にできる、大気の温度や湿度が均質な空気の塊

冬に優勢	春秋に優勢	夏に優勢

【2】日本の冬

偏西風の位置	日本列島の
優勢な気団	気団
天気変化の特徴	強い（ ）季節風が吹く。 日本海の（ ）海流から水分の補給を受け日本海側に多量の降雪。太平洋側は乾燥した晴天が続く。 低気圧や前線の通過は少ない。
キーワード	

【3】日本の春

偏西風の位置	日本列島の
優勢な気団	気団
天気変化の特徴	偏西風帯は地表付近では気団の境目となり（ ）ができる。 蛇行している部分に（ ）が発生・発達する。 前面南から温かい空気、後面北から冷たい空気が流入 波動の通過により天気や気温が周期的に変化。
キーワード	

【4】日本の夏

偏西風の位置	日本列島の
優勢な気団	気団
天気変化の特徴	高気圧に覆われ()の発達通過は少ない。 安定した暑い晴天が続く。 ()は多く、蒸し暑い。 強い上昇気流が発生すると()を生じ、雷雨になりやすい。
キーワード	

【5】日本の秋

偏西風の位置	日本列島の
優勢な気団	気団
天気変化の特徴	前線ができ、蛇行している部分に温帯低気圧が発生・発達する。 偏西風波動の通過により天気や気温が周期的に変化。 日本列島に()が接近する。亜熱帯高圧帯の南側で発生、高気圧のへりをまわって偏西風に流されて向きを東向きに変える。
キーワード	

台風：日本の南方洋上に発生した()のうち、中心付近の最大風速が17m/s以上に発達したもの

【6】梅雨と秋雨

春秋の季節の変わり目には、日本付近に気団の境目である()が停滞する。春夏の移り変わりに活動するものを()前線、夏秋の移り変わりに活動するものを()前線といい、それらに伴う長雨をそれぞれ() ()と呼んでいる。

これらの前線の活動は、大陸の配置や大山脈の影響を受け、遠くインドや南アジアの気象と連動していて、全体として()と呼ばれる全地球的な気象現象の一部である。